

沖縄県系移民渡航記録を探す

沖縄県から海外へ移民した人は、戦前約72,000人、戦後約18,000人に上る。移民した人を調べる上で、基礎資料となるのは、渡航記録と呼ばれる沖縄から海外へ渡った時に作成された資料である。渡航記録には、外務省が発給した海外旅券（パスポート）に関する「海外旅券下付表」、移民船乗船名簿、並びに、移民先で作成された下船名簿や入国記録などがある。

ここでは、国内（沖縄県）と海外（移民国別）に区分し、資料を紹介する。

1. 国内（沖縄県）

1-1. 1899年～1941年

<データベース>

沖縄県系移民 渡航記録データベース 1899-1941 (<https://opl.okinawan-migration.com/>)

沖縄県立図書館、ハワイ沖縄系図研究会 (<https://ogsh.warubozo.com/home/>)、沖縄移民研究センター (<https://okinawaimin.sakura.ne.jp/>) が連携して整備したデータベース。1899年から1944年の間に、沖縄県系移民の渡航記録約60,000件を収録。ハワイ、ブラジル、ペルー、フィリピンなど26の国と地域の渡航先を網羅し、氏名から、移民国、生年月日（年齢）、性別、渡航日（旅券発行日）、戸主との関係、渡航目的、本籍地の検索が可能である。また、日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語に対応。

<図書資料>

『沖縄県史料 近代5（移民名簿Ⅰ）』[1899-1906年]

沖縄県立図書館史料編集室編 沖縄県教育委員会 1992年

【K201/O52】

『沖縄県史料 近代6（移民名簿Ⅱ）』[1907-1911年]

沖縄県立図書館史料編集室編 沖縄県教育委員会 1994年

【K201/O52】

『沖縄県史 資料編6 近代1（移民会社取扱移民名簿）』[1912-1918年]

沖縄県文化振興会公文書館管理部史料編集室編 沖縄県教育委員会 1998年

【K201/O52】

『沖縄県史 資料編8 近代2（自由移民名簿）』[1908年-1920年]

沖縄県文化振興会公文書館管理部史料編集室編 沖縄県教育委員会 1999年

【K201/O52】

『沖縄県史 資料編11 近代3（移民会社取扱移民名簿）』[1919-1926年]

沖縄県文化振興会公文書館管理部史料編集室編 沖縄県教育委員会 2000年

【K201/O52】

『沖縄県史 資料編19 近代6（自由移民名簿）』[1921-1925年]

沖縄県文化振興会公文書館管理部史料編集室編 沖縄県教育委員会 2005年

【K201/O52】

『外務省記録「海外旅券下付表」』（全65冊）〔複製〕 外務省〔編〕

【K334/MO55, 資料ID: 1010041620 ほか】

『沖縄県史料』『沖縄県史 資料編』の元となった資料。外務省外交史料館所蔵「外務省記録（海外旅券下付表）」から沖縄県に本籍がある移民を抽出したもの。収録範囲は1889(明治32)年2月～1944(昭和19)年9月まで。

『伯刺西爾行移民名簿』 [1908-1941]

ブラジルへ戦前に渡航した日本人移民の航海（第1回～第306回）ごとの乗船名簿。原資料はブラジル日本移民史料館所蔵。国立国会図書館デジタルコレクションで全文を閲覧することができる (<https://dl.ndl.go.jp/pid/1449884>)。第1回～第76回は『沖縄県史』の移民名簿にも掲載されている。

市町村史の移民編や字誌

沖縄県の市町村の多くは、自治体史料編纂の一環で、移民に特化した移民編を出版している。その中で上記外務省記録「海外旅券下付表」及び戦後の移民者記録などから各市町村出身者を抽出し、さらに移民先や出身地域での聞き取り調査などで得た記録が追加されているものもある。「字誌」ではさらにその域内の出身者の証言や渡航先の交流の歴史を網羅しているものもある。市町村史の移民編が出版されているのは、名護市・浦添市・豊見城市・うるま市（具志川市のみ）・南城市（大里村・佐敷町・玉城村）・金武町・西原町・北谷町・宜野座村・国頭村・大宜味村・北中城村である。

NEW!

『引揚者給付金請求書処理表』（全10巻）〔複製〕

『昭和42年法律114号 引揚者特別交付金受給者名簿』（全4巻）〔複製〕 沖縄外地引揚者協会編

【K201/O52, 資料ID: 1010217634 ほか】

沖縄県から戦前に南洋（パラオ、テニアン、サイパン等）、フィリピン、満州、台湾、中国、朝鮮などへ渡り、6か月以上（特別交付金は1年以上）に生活の本拠を有し、終戦に伴って本邦に引き揚げた者等に対し、厚生労働省または総務省から給付される給付金手続きに係る書類。沖縄外地引揚者協会が作成した資料である。海外旅券を得ずに渡航することができた地域の渡航者の記録を調べることができる。本籍地のある市町村毎に分かれている。

1-2. 1948年～

NEW!

『出域者名簿 南米関係』 [1948-1953] 〔複製〕 琉球政府法務局出入管理部審査課〔編〕

【K334/R98, 資料ID: 1009921923】

琉球政府が作成した1948年から1953年までに中南米へ渡航した1,820名の記録である。戦後、海外渡航が再開された初期の記録で、海外で生まれ沖縄で教育を受けていた二世が再渡航した際の記録が多い。氏名・渡航日・渡航先・居住地などの記録があり、渡航先はブラジル・アルゼンチン・ペルー・ボリビア・メキシコである。原資料は沖縄県公文書館所蔵。

『移住者原簿』（全7冊）〔複製〕 琉球政府作成

『市町村別移住者名簿』（全2冊）〔複製〕 琉球政府作成 【K334/O52, 資料 ID: 1010041448 ほか】

琉球政府の移住課が作成したブラジル(1953-1970年)・アルゼンチン(1953-1970年)・ペルー(1957-1970年)・ボリビア(1954-1970年)へ移住者約12,300名の個票。移住者世帯の生年月日、本籍、現住所、家族構成および保証人の住所氏名の記載あり。『市町村別移住者名簿』はカナダ・パラグアイへの移住者の氏名の記載あり。どちらも原資料は沖縄県公文書館が所蔵。

NEW!

『移住者記録カード』（全4冊）〔複製〕 【K334/I29, 資料 ID: 1010219549 ほか】

1954年（昭和29年）以降に海外へ移住者の記録。ブラジル・アルゼンチン・ボリビアなど南米諸国及びカナダへ記録も含まれる。約7,200名の記録があり、上記の『移住者原簿』との重複もみられる。

2. 海外（移民国別）

2-1. ブラジル

沖縄からのブラジル移民は、1908年の笠戸丸から始まり、戦前約15,000人、戦後約9,500人に上る。戦前戦後を合わせると最大の移民国である。呼び寄せや青年隊を除き、ほとんどが1世帯3名以上の家族移民であった。

<データベース>

足跡プロジェクト 移民船の乗船者名簿データベース ※ポルトガル語

(<http://imigrantes.ubik.com.br/>)

ブラジル日本移民史料館は、ブラジル日本移民百周年記プロジェクトの一環として、戦前戦後（1908~1973年）に日本からブラジルに移民した230,000人の乗船記録を検索できるデータベース構築した。ポルトガル語の検索画面でローマ字入力により検索可能。氏名、移民船名、出発日、到着日、出身県、目的地が表示される。世帯（家族）ごとに表示される。

サンパウロ州移民収容所 収容者名簿データベース ※ポルトガル語

(<http://www.inci.org.br/acervodigital/livros.php>)

サンパウロ州移民博物館が提供している移民収容所に滞在した者を検索できるデータベース。海外等からブラジルへ到着した移民の多くは、サンパウロ市内の収容所で一定期間滞在時、健康診断や外国人登録などが行われた。氏名、年齢・性別・国籍・婚姻有無・目的地・出身国（県まで）・船名・到着日などを記載。原資料画像も閲覧可能。

移民船 下船者名簿データベース ※ポルトガル語

(<http://www.inci.org.br/acervodigital/passageiros.php>)

サンパウロ州移民博物館が提供している移民船の下船者名簿。船名などで検索し、到着日や下船者名簿の原資料画像を閲覧可能。

FamilySearch（ブラジル入国証明書など）データベース

(<https://www.familysearch.org/>)

末日聖徒イエス・キリスト教会が提供する世界最大規模のルーツ調査に利用できる無料のデータベース（要 ID 登録）。FamilySearch は、アメリカ合衆国をはじめブラジルなど世界各国の公文書が検索でき、移民の乗船名簿、出生・死亡結婚証明書、国勢調査などを氏名から検索することができる。ブラジル入国時に撮影された外国人登録証（写真付き）なども含まれる。

<図書資料>

『**ブラジル沖縄移民名簿**』屋比久孟清編著 在伯沖縄県人会 1987年 【K334/Y11】
サンパウロ総領事館、資料館にある日本移民名簿から沖縄県系移民を抜き出して作成。戦前移民、戦後移民（沖縄産業開発青年隊含む）、転住移民（ペルー・ボリビアから）に区分されている。渡航船ごとに、船名、到着日、世帯ごとの氏名・続柄、年齢、出身地（字名まで）、最初の目的地（耕地名など）を収載。

『**笠戸丸移民 未来へ継ぐ裔孫**』赤嶺園子著 ニッケイ新聞 2014年 【K334/A31】
第一回ブラジル移民のうち沖縄県出身者 325 人の足跡と子孫をブラジル、アルゼンチン、沖縄で追跡調査した記録した資料。出身市町村別に氏名、生年月日、本籍地、死亡年月日、最初の配耕地などを収録。

『**移民青年隊着伯 25 周年記念誌**』在伯沖縄青年協会 1984年 【K334/A31】
1957 年から 1964 年までの間、14 次にわたり 303 名の沖縄青年がブラジル移民青年隊として渡航した。隊員名簿及び住所録（1984 年時）、引受人名簿、配耕先、現住所などを収載。

*戦前期にブラジルへ渡った県系移民の一部は、ペルーから転住したケースもあるため、見つからない場合はペルーの渡航記録も参照するとよい。

2-2. ペルー

<データベース>

Pioneros——ペルー日本人移民データベース 1899~1941 ※日本語

(<https://jommdms.jica.go.jp/>)

ペルー日系人協会と JICA 横浜海外移住資料館による共同プロジェクトで、1899 年から 1923 年にかけて契約移民として渡航した 18,727 人全員と、1923 年から 1941 年にかけて自由移民として渡航した約 11,650 人のうち 2,348 人分のデータが収録されている。氏名から、出身都道府県、船舶名、ペルーへの到着日、配耕地名の検索が可能。

<図書資料>

『**秘露移民航海者名簿 01**』[複製] 【K334/P43, 資料 ID: 1009856343】

『**秘露移民航海者名簿 02**』[複製] 【K334/P43, 資料 ID: 1009856368】

国立国会図書館がマイクロフィルム化した「日本人ペルー移住史料館“平岡千代照”」所蔵資料の一つである。マイクロフィルムリール 2~4 に所収の秘露移民航海者名簿を当館が抜粋し、製本したもの。01 は 1899 年の第 1 航海から 1915 年の第 40 航海まで、02 は 1916 年の第 41 航海か

ら1923年の第82航海を収録。どちらも日本人ペルー移民全体の記録である。

2-3. アルゼンチン

<データベース>

移民船 下船者名簿データベース ※スペイン語

(<https://cemla.com/>)

ラテンアメリカ移民研究センターのサイトにあり、1885-1960年までにアルゼンチンに船で到着した4,000,000人以上(200か国以上)下船者名簿を収録。名字(ローマ字)から氏名、年齢、出身国・県、職業、到着日、船名、出航港の検索が可能。

<図書資料>

『アルゼンチンのうちなーんちゅ 80年史』 在亜沖縄県人連合会 1994年 【K334/A79】
市町村別に最も古い移住者10名の氏名・生年月日・到着年・当初の職業を紹介。

*アルゼンチン県系移民は、ブラジルなどから転住するケースもあるため、見つからない場合は、他国への渡航記録を参照するとよい。

2-4. ボリビア

『ボリビア・コロニア沖縄入殖二十五周年誌』 金城達己編 1980年 【K334/B65】

1954年の第1次から1968年の第21次までの琉球政府計画移民(3,371名)の世帯別氏名・続柄・出版時(1980年頃)の動態(転住、帰国、婚姻、死亡など)及び現況(在住地)を収録。出身地は市町村名まで。また、1952年のペルーに入国できず、暫定的にボリビアに入国したペルー移民呼び寄せ45名(主に2世)の氏名も記載している。

『ボリビアの大地に生きる沖縄移民』

コロニア・オキナワ入植50周年記念誌編纂委員会編 オキナワ日本ボリビア協会 2005年

【K334/O52】

琉球政府計画移民の世帯別氏名・続柄・生年月日、出版時(2005年頃)の異動状況(転住、帰国、婚姻、死亡など)及び現況(在住国)を網羅。1969年~1978年海外移住事業団(のちJICA)移住者や沖縄県県費留学生など留学生の名簿も記載。

*戦前にボリビアへ渡った県系移民は、ペルーから転住したケースが多いため、ペルーの渡航記録を参照するとよい。